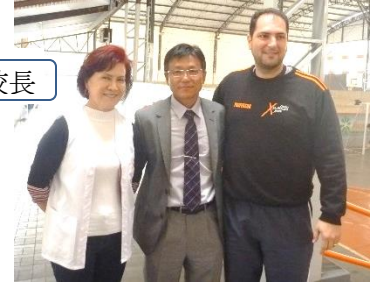


マリンガ市滞在記 ⇒・⇒・そして、豊橋市との教育提携都市パラナヴァイ市へ

市政 70 年ほどのまち。先住民が原始林を切り開き、マリンガのまちづくりを計画的に推進してきた歴史があります。緑豊かな街並みが随所に見られ、街路樹の木漏れ日が心を穏やかにしてくれます。また、道路網も整備されており、パラナ州のモデル的なまちにまで成長を遂げてきました。

私立 サンフランシスコ ザビエル校

塩崎校長



体育教員(元ブラジルハンドボール代表)

【沿革】…1895 年「日伯修好通商航海条約」が締結された。1908 年「正式移民開始」となり、笠戸丸で約 800 名の日本人がブラジルに渡った。マリンガ市には、1947 年に移民が入ってきた。当時、子どもたちを教育する場所も機会もない状態であった。そんな中、日本から渡伯した木村神父が立ち上がり、学校設立に着手し 1963 年に開校した。

□学校設立者への崇高の念から、日本語教育（言語と文化）を毎週 1 時間行っています。4 年生の子どもたちと学級担任に、向山小学校の一日の学校生活をまとめた動画を視聴してもらったところ、通学団登校や給食、清掃の場面で歓声があがりました。

《井上さん》との出会い（日本生まれ～14 歳まで在日、浜松市の公立学校に通学）

- 現在 16 歳、9 年生（年齢では高校 1 年生）※学校・保護者・生徒で協議後、所属学年を決定する
- 日本在住中、家庭ではポルトガル語、学校では日本語を使用していた。
- ブラジルに帰ってから、家庭生活や学校での学習で困ったこと。
 - ・さまざまな習慣の違いに戸惑う。学校での学習、特に歴史とポルトガル語が理解できない。
- 【対 処】家庭で猛特訓し、言語は 1 年程で追いついた。塩崎校長も彼の努力を認めている。
- 【生の声】日本で、簡単なポルトガル語学習を取り入れてくれると、帰伯したとき助かると思う。
- ★日本在住経験のある数名の子どもたちと話をしたが、井上さんと似たような困り感をもっていた。

マリンガ市長（カルロス ロベルト プピン氏）を表敬

歓迎

感謝



豊橋市の本事業に対して、長年の間サポートしていただいている植田氏のご尽力により、表敬訪問が叶いました。市長から歓迎の意を頂戴した後長年にわたり豊橋市の指導主事を受け入れていただいていることに対して感謝の意をお伝えしました。市長は「ぜひ、毎年足を運んでください」と笑顔で述べられました。引き続いて、副市長を表敬し、本事業の趣旨をお伝えしたところ、「ぜひとも、訪問して欲しい学校がある」と述べられ、急遽午後からの学校訪問がセットされました。

Chilling 【プリントアウト1枚の旅】 どうやら、この通信を作っているPCは無線Wi-Fiに対応していないらしい。

そこで、①PCを1階のワークスペースに持参してコネクター接続 ②宿泊ホテル宛てにメール送信（音声通訳で日本語をポルトガル語に変換してから、メール本文に入力） ③ホテル担当者がプリントアウト ④翌日、手元に届く
▼思わず、担当者の手を両手で握りしめ、「ムイント オブリガード(本当にありがとう)」と、声に出していた。